

まさひめ

登録番号：第3587号

育成者：京谷英壽 吉田雅夫 山口正己

登録年月日：平成5年7月27日

西田光夫 石澤ゆり 西村幸一

登録者：農林水産省果樹試験場

小園照雄

(茨城県つくば市藤本2-1)

来歴：「21-18」と「あかつき」の交雑実生

特性

■栽培特性

樹勢はやや強、樹姿はやや開張性となる。姉妹品種である「よしひめ」とよく似た樹性を示す。枝の地色は緑色で、陽光面は赤く着色する。枝の発生は多い。花芽、葉芽の着生は良好で、結実が良い。花は単弁普通咲きで花粉を有し、自家結実性である。

開花期の早晩は中程度で、「白鳳」および「白桃」より1～2日早く、「よしひめ」と同時期で、育成地の茨城県千代田町では4月上旬、山形県では4月下旬、山梨県では4月中旬、岡山県では4月上～中旬が開花盛期となる。生理的落果の発生は少なく、結実数は極めて多いので、摘蕾、摘果など適切な結実管理を行うよう心がける必要がある。育成地では植え付け5～6年後頃より主枝の開きが顕著になっており、日焼けの発生などが問題となった。成木では、主枝の保持などの対策が必要であると思われる。果皮の着色は、東日本では「白鳳」並で比較的良好であるが、岡山県や徳島県などでは「白鳳」に比べて着色が明らかに劣っており、これらの地域では有袋栽培が前提となる。

収穫期は、満開から約115日後となり、「白鳳」「あかつき」の10日程後に収穫される中生種である。「よしひめ」の数日後に収穫される。

■果実特性

果形は扁円形で、果頂部は浅く凹み、こうあはやや深く、広さは中程度である。縫合線の深さは中程度である。片肉果は少なく、玉揃いは良好である。果皮の地色は白で、着色は「ほかし」状に、中程度入る。裂果、果皮のひび割れはみられない。育成時の果実平均重は230g程度であったが、その後、年により300gを超える果実も得られており、「よしひめ」にはやや劣るものの、「あかつき」より大玉となる可能性が高い。

果肉色は白色で、肉質は溶質であるがやや硬く締まり、日持ちは良好である。果汁は多く、糖度は14%前後と高く、品質良好な高糖度系品種である。酸味はpHで4.4程度と少ない。核周囲の紅色素は中程度認められるが、果肉内の紅色素の着生は少ない。核は粘核で、核割れ果の発生も少ない。

■病虫害および栽培上の留意点

特に問題となる病害は見られないが、せん孔細菌病の発生が中程度見られ、灰星病にも罹病性である。「白鳳」および「あかつき」と同様の防除が必要であろう。

7、8年生までの試作結果では、樹勢は比較強いとされているが、一部の地域では隔年結果的な収量の変動が認められており、結実過多による樹勢の低下が問題となる可能性がある。適正着果に努め、樹勢維持を図るよう心がける。

■地域適応性

登録の年月が浅く、大面積の普及は見られないが、高品質品種であり、モモの品質向上に有効な品種であることから今後の普及が望まれる。特に、東日本では無袋栽培が可能であり、収量性も良好なことから、今後、中生と晩生をつなぐ品種として栽植されていくものと思われる。

(山口正己)